

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470200740	事業の開始年月日	平成13年4月1日	
		指定年月日	平成13年4月1日	
法人名	医療法人ゆりの会			
事業所名	グループホームゆり苑			
所在地	(〒221-0802)			
	神奈川県横浜市神奈川区六角橋1-4-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	12名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年1月23日	評価結果	平成23年3月18日	
		市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしさ」「その人らしい暮らし」など、「その人らしさ」を職員はどのように捉えて、どのように支援を行っていくことで、本当の「その人らしい生活」を実現できるのかを、本人の言葉、家族や知人からの情報等から職員は「その人らしさ」を拾い出して、日々の生活の中に「その人らしさ」が自然に見られるような環境作り、働きかけに腐心している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年2月17日	評価機関 評価決定日	平成23年3月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】
 ◇「医療法人 ゆりの会」の傘下であり、隣接の齊田医院が全面的に利用者の健康維持、治療にあたっている。また脳神経外科は菊名総合病院と密接な関係にあり、利用者、及び家族には大きな安心感を与えている。
 ◇看護師3人を職員として配置し、マッサージを含め健康管理に配慮した居心地よいケアの体制を採っている。
 ◇消防署の協力で、運営推進会議が立ち上がり、地元自治会、消防署との災害時の協力協定が交わされ、地域に根ざした施設になっている。

【事業所の工夫点】
 ◇食材および施設運営に必要な生活用品を地元で調達し、利用者も含め商店街の一員としての付き合いができています。
 ◇食事を重視し好みや身体状態に合わせ味付け、調理方法を個別に変えている。食事作りは、職員が交代で担当しているが全職員、情報を共有し対応している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

ゆり苑

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	山 野 草

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自由を尊重し、自己決定を促し、自立した生活ができるような援助を実践していくことに日々努めています。	・利用者の「自由」「自立支援」「自己決定」を理念とし、事務室に掲示して、日々のミーティングや実務を通して互いに理念を確認しその実現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの近隣に住んでいた入居者が、いつまでも近隣の住人との交流を持てるようにホームは積極的に支援をしている。	・自治会に加入しており、まつりなどの地域行事には、外出可能な利用者と共に参加している。 ・隣接する斉田医院を含め、地域商店街とは永年の付き合いがあり、日常の食材、生活用品の調達など、自然な状態で地域との交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ロコミでの介護相談業務が定常化しています。管理者が中心になって相談に訪れた人への介護支援を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年2月に第一回の運営推進会議を開催する予定です。	・今年2月、消防署の協力を得、地域の代表や家族が参加して初めての運営推進会議を発足し、地域との協力関係が一層強化した。 ・自治会、消防署、施設の間で災害時の支援協定書が交わした。	運営推進会議には、今後、行政や地域包括支援センターの担当者の参加を働きかけることが望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居しており、区役所保護課との繋がりを通して弊ホームの実情やケアサービスについて連絡を取り合っています。	・多くの生活保護受給者を受け入れている関係もあり、利用者の現況報告などで、常に区役所の保護課とは連絡を取り合っている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については管理者の指導の下に職員は絶対に行ってはいけない行為として認識しております。そして毎日拘束をしない努力に努めております。	・全職員は、研修をとおして身体拘束についての基本的な知識を習得し、朝夕のミーティング、ケアの現場を通して徹底するよう努めている。 ・日中玄関は施錠しておらず、居室も施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待イコール身体的暴力と考えている職員が多くいることに改めて驚き、新規職員も採用した折に職員全員で再度、虐待についての勉強会を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記事業、制度についての大枠は理解していますが、実際に活用、支援している状況は認められない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者ご家族との契約等については十分な説明を行い、お互いに行き違いのないようにしている。理解、納得が得られないときには、理解、納得が得られるように話し合いを持つ。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心になって利用者、ご家族の意見、要望を積極的に吸い上げ、職員との話し合いを通して運営に反映している。	・家族との連携が緊密であり、管理者と家族、利用者間では些細なことでも自由に意見や要望を言える関係を築いている。 ・出来ないことは率直に話し合うことで、相互の信頼関係ができています。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者の個別の意見交換により、各職員より提案されたものを職員全員に伝えるようなスタイルで意見の反映をしています。	・管理者は、職員との個別の話し合いを大切に気楽に意見を言える関係を築くように努めている。 ・職員からの提案は朝夕のミーティングで取り、内容に応じて直ちに運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の理事会時に、運営状況報告の中で就業環境についての説明を代表者は受け、それに基づいて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないことを代表者が懸念をして、経験ある看護師を多く配置して業務の中で多岐に渡って指導を行うような体制を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員の交流までは至っていないのが現状です。時間がないのが一番の原因です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から直接、困っていること、不安なこと等を伝えていただき、不安を最小限にして入居していただくよう努めています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当該項目については、左記文面とおりに行っており、特に問題はありません。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が、その時必要としているサービスが弊ホーム内で提供できないときには、話し合いを行って解決するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は同じ生活者としてお互いに向き合うように努めています。この人間関係づくりがグループホームの真髄と考えます。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しても、上記項目の実施状況と同じです。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	途切れないような支援に注意を注いではいますが、現実には徐々に途切れていってしまうケースが増えています。	<ul style="list-style-type: none"> 各人の好み、自由な意思を大切に馴染みの関係を継続するように、利用者を支援しているが、高齢化に伴って頻度は減っている。 地元出身者は、日常の交流を大切にしよう支援している。 	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員配置を増やし、職員を交えての入居者間交流の場を作って入居者同士が気軽に言葉を交わせるような環境作りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ごく限られたご家族との交流が利用終了後も続いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の発する言葉に耳を傾け、日常での振舞いに目を向けて、入居者が何を思って生活しているかを毎日確認しながら生活をしていただいている。	・利用者の殆どは、意思表示ができて些細なことまで自由に言える人間関係を築いている。 ・出来ないことは率直に話し合い不満が残らないよう、会話を通して、利用者の要望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活がどのようなものであったのか、近親者から情報をいただき、入居生活に生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員配置を厚くして観察の目を増やし、入居者の生活状況について身体的、精神的両面からの把握に努めています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、職員、主治医、訪問看護師等、いろいろな人から意見、助言をいただき、本人との話し合いの下に介護計画を作成しています。	・主治医や訪問看護師の助言に加え、日常の話し合いで本人の意向を、家族とは、面談または電話で話し合っって介護計画に反映している。状態が安定している利用者が多く、介護計画は特定の場合を除き6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	見直したケアについて介護計画として文字化していくことに今年は十分な時間をとることができなかったことが大きな反省点です。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に向けての思いが職員の中にあるが、実現化するに当たってのプロセスが描ききれておらず、まだまだ時間を要するのが明らかな状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の持つ施設、自治会、積極的に関わっていただける商店街の人たち、幼稚園の先生たちの応援をいただきながら楽しめる支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長くお付き合いしているかかりつけ医との関係を大切にして、情報の交換に努めている。	・隣接する内科系の齊田医院を中心とした手厚い医療対応が当施設の特長の一つで、家族も評価している。 ・精神科等では、従来のかかりつけ医との関係を大切に適切な医療が受けられるよう支援している。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を増員して勤務上の配置を厚くしています。主治医診療所が隣接するために容易に往診も受けることが可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先主治医、弊法人医師、看護師、介護職員が一体となって情報交換を行い、利用者の早期退院、再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、家族との話し合いを持ち、本人、家族の希望に沿って重度化したとき、終末期の対応に努めている。	・建物の構造上長期の終末対応は難しいが、本人、家族の意向を尊重し、関係医療機関との連携を密に対応している。 ・看護師3人を職員に日常の健康管理を重視すると共に緊急時の対応に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度実施を予定していた最重要テーマでありましたが、まったく手をつけることができませんでした。看護師の増員が安心感を生んでしまったようです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署の尽力をいただき、更なる地域との連携協力体制を築くことができました。地域との防災連携協定の締結。	・消防署立ち会いによる避難訓練を、今年度は1回実施している。 ・運営推進会議を通して、地域の自治会、消防署の積極的な提案で緊急時の支援協力の覚書を交わし地域とのつながりを深めている。	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者、職員がホーム内で共に力を合わせて生きることを目標としてホーム運営に努めており、入居者、職員はお互いに尊敬しあうことを日々実践している。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への声かけには、人生の先輩として敬意を払い、プライバシーに気をつけている。 ・職員に不適切な言動があったときは、管理者がその場で注意をし職員の教育に努めている。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の中には、自分の思いを他人に適切に伝えられない人もいらっしゃいます。職員はそのような方の思いも十分汲み取って差し上げられるような支援に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にするために、またゆったりと時間を送っていただくために、職員が忙しく業務に追われないような運営に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの入居者が気に入っているものを職員は記憶し、入居者がそれを身につけたときには褒めて差し上げたりして、おしゃれに対しての意欲を引き出すような支援に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者一人ひとりの好みに合わせた食事の提供はなかなか困難ですが、食事時の環境作り、時には楽しい会話が持てそうなメニューでの食事提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望を入れ、一部の入居者は職員と一緒に買い物に行き食材を購入して、食事を楽しんでいる。 ・好みや身体状況に合わせた味付けや調理方法で、楽しめる献立作りをしている。 	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりに対して、その日の食事摂取量、水分摂取量を職員は把握して、把握した内容によっては個別に必要な支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	問題なく毎食後口腔ケアを実施できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄への配慮、工夫、支援は実施できている。ホームとして「排泄の自立支援」は重要ポイントとして位置付けています。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。 駒草ホームの入居者3人は意識、行動共に自立しているが、時には失敗もある。山野草ホームの一部の入居者はリハビリパンツを使用して、パターン管理で対応している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化のよい便通に繋がるような食材を使ったメニューで食事を提供し、水分摂取を適度に促し、定期的にトイレに座る習慣を取っていただきながら便秘対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりが入浴を楽しめるような支援を行ってはいはいるが、曜日、時間帯を限定したものの中で行っているのが現実です。	<ul style="list-style-type: none"> 入浴は週2回となっている。利用者には、気の済むまでゆっくりと入ってもらい、職員との会話楽しんでいる。 柚子湯や菖蒲湯で季節の移り変わりを感じてもらっている。 	

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まってはいるが、消灯後入居者一人ひとりとは他入居者に迷惑ならないような気遣いの下に自由な時間を送られている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が使用している薬について一通りの理解はしており、症状の変化等が認められたときには主治医と相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ある程一人で自分の生活を組み立てることのできる入居者以外の方に、特に役割を持っていただくようにしてメリハリのある生活となるような支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に関してははたがらない入居者が大半です。外出を希望される方は職員、ボランティア、家族の協力をいただいて外出支援を行っています。	・利用者は近隣に住んでいた人が多く、希望者に対しては車椅子の人も一緒に公園や商店街を廻り季節の移り変わりを楽しんでいる。 ・家族と週一回墓参りや・外食に出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる人のみ支援しているのが現状です。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればほとんどのケースで支援ができています。個人的に電話を持ちたい入居者には、問題が発生しないならば個別に電話を持っていただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の環境については、特別な工夫はしませんが、気持ちよく皆が過ごせるように入居者、職員ともども配慮を行っています。	・リビングは明るく、温湿度、照明、換気に配慮し、不快な臭いも感じられない。 ・出窓にはお雛様が飾られ、桃の花や観葉の鉢植えが置かれ、家庭の居間のような落ち着いた雰囲気になっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用したものでありなかなか共用の空間の中でひとりになれる余裕はない。気のあった入居者はお互いの部屋を行き来して空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望むような、本人が好むような空間作りに家族、職員は話し合いを持って実現に努めている。	・居室は使い慣れた好みの調度品、家族の写真、仏壇、テレビが持ち込まれ、今までの生活の延長として、落ち着いてすごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	使い勝手の悪いハード面を有する施設ですので、入居者自身の安全、安心を考えた生活を一番に考慮しています。		

事業所名	グループホーム ゆり苑
ユニット名	駒 草

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の自由を尊重し、自己決定を促し、自立した生活ができるような援助を実践していくことに日々努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの近隣に住んでいた入居者が、いつまでも近隣の住人との交流を持てるようにホームは積極的に支援をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者の人が入居しているホームということで、地域の在宅介護をしている人からの相談が多々あります。相談の中で認知症に関しての理解や支援について発信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成23年2月に第一回の運営推進会議を開催する予定です。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者が多く入居しており、区役所保護課との繋がりを通して弊ホームの実情やケアサービスについて連絡を取り合っています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束については管理者の指導の下に職員は絶対に行ってはいけない行為として認識しております。そして毎日拘束をしない努力に努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待イコール身体的暴力と考えている職員が多くいることに改めて驚き、新規職員も採用した折に職員全員で再度、虐待についての勉強会を行っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	左記事業、制度についての大枠は理解していますが、実際に活用、支援している状況は認められない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結以降も、解約、改定以降についても、行き違いのないように不安、疑問点をそのままにしないように利用者、ご家族との関係作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心になって利用者、ご家族の意見、要望を積極的に吸い上げ、職員との話し合いを通して運営に反映している。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者と職員とが気軽に意見交換ができるような場（インフォーマル）を積極的に作り出しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の理事会時に、運営状況報告の中で勤務状況についての説明を代表者は受け、それに基づいて職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会が少ないことを代表者が懸念をして、経験ある看護師を多く配置して業務の中で多岐に渡って指導を行うような体制を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	職員の交流までは至っていないのが現状です。時間がないのが一番の原因です。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するに当たって入居対象者が安心して入居できるように相互訪問を重ねて安心して入居できるように努めている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するに当たって家族が安心して入居対象者を入居させられるように相互訪問を重ね、関係作りをして安心して入居できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今必要としてしているサービスが何かを入居希望者、家族、管理者が話し合い、グループホーム利用以外のサービスも含めて相談、支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームを入居者の生活の場として捉えるだけでなく、職員にとっても生活の場であることを意識してもらい、両者の協力で生活が成り立っていることを感じています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員との相互理解の下に、入居者と家族の絆を深めるような支援に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者すべての人には当てはまりませんが、できり限りの支援は家族と連携しながら実施しています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	駒草に入居する入居者は、職員同等か、それ以上に深い関わりを持ってお互いを支えあっている。すばらしい状況です。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ごく限られたご家族との交流が利用終了後も続いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を反映できるよう努めています。困難なときには入居者が納得できるところにソフトランディングするように努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者自身が今までの生活と違うことを認識しており、今の自分がしたいホームでの生活を模索している。職員は今を大事にしたい入居者の気持ちを大切にしたい関わりに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員配置を厚くして観察の目を増やし、入居者の生活状況について身体的、精神的両面からの把握に努めています。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者本人がホームでの暮らしをこのようにしたいという意向をはっきりと言葉にできる。職員はできること、できないことを見極めて本人に伝えながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者が言葉にしたり、入居者がとった行動を観察し、それらを職員はいろいろな角度から話し合い、アセスメントして介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化に向けての思いが職員の中にあるが、実現化するに当たってのプロセスが描ききれておらず、まだまだ時間を要するのが明らかな状況です。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を積極的に利用して入居者一人ひとりの生活に結びつけるような支援になっているか。できていないと考えます。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を多く配置することで、受診については看護師のフォローがあります。適切な医療とかかりつけ医については十分支援ができていると感じます。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を増員して勤務上の配置を厚くしています。主治医診療所が隣接するために容易に往診も受けることが可能です。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、入院先主治医、弊法人医師、看護師、介護職員が一体となって情報交換を行い、利用者の早期退院、再入居に常時備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より本人、家族との話し合いを持ち、本人、家族の希望に沿って重度化したとき、終末期の対応に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度実施を予定していた最重要テーマでありましたが、まったく手をつけることができませんでした。看護師の増員が安心感を生んでしまったようです。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	神奈川消防署の尽力をいただき、更なる地域との連携協力体制を築くことができました。地域との防災連携協定の締結。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者と職員との関係は非常に密である。いつまでもそのような関係を保てるようプライバシー、言葉掛けに注意して関係が崩れないような対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を気兼ねなく表出できるような職員との関係作りに努めており、できることは自分でするように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の入居者の気持ち、意向に沿った支援ができていないかといえば、それはできていないと感じます。業務に追われる日が多くあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	駒草の入居者は自立度が高く、衣類、化粧等に関して自分独自の考えを持たれている。その点を大切に支援を職員も理解をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	いろいろな入居者がおり、好みもまちまちです。そのような中での食事提供は苦勞しております。しかし食事が楽しみであるという入居者の気持ちを大切にしたい対応には努めております。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	駒草の入居者には糖尿病の方が複数おり、食事作りは協力病院栄養師の助言に基づいて行っている。毎日の血糖値測定や本人の状態に合わせた食事作りに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の自立度は非常に高く、口腔ケアに関しては本人たちが毎食後口腔ケアを進んで行っている。それに対して職員は口腔ケアが適切に行われているかのチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	軽い尿漏れ、便汚染がある入居者がパットを使用しています。自分ですべて処理しています。自分でうまく処理できないときには職員に申し出てきます。その時職員が援助をします。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容に注意をし、運動（毎日の散歩）を促し便秘予防に努めています。糖尿病の方の療法も兼ねています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者一人ひとりが入浴を楽しめるような支援を行っているが、曜日、時間帯を限定したものの中で行っているのが現実です。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	駒草は特に厳密な消灯時間を設けてはいない。入居者が個人的に他入居者に迷惑とならないような配慮をしながら自分の時間を楽しんでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	駒草には糖尿病、特定疾患等を抱える入居者が入居されている。入居者の状態と内服については看護師より説明を受けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしい時間の送り方ができるように支援をしていますが、「その人らしさ」とはどのように判断したら良いのか迷うことが多々あります。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	駒草は意思表示のはっきりした入居者の集団です。外出に関しては「行きたくない」ということが増えてきて、支援方法を模索中です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるよう支援している	入居者全員が自分の財布を持ち、必要なときに職員と共に外出、買い物が無理なくできるように支援を行っている。		

ゆり苑

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	問題なく外部とのやり取り（電話、手紙等）ができるように支援ができています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間については職員が手を加えることもあるが、入居者が自分たちの手で空間作りを行っている。入居者の共有スペースは入居者に任せている面が大きい。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム自体が狭いスペースを利用したものでありなかなか共用の空間の中でひとりになれる余裕はない。気のあった入居者はお互いの部屋を行き来して空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の望むような、本人が好むような空間作りに家族、職員は話し合いを持って実現に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立度の高い入居者です。しかし全てをお任せしている訳ではありません。やはり安心、安全、安楽な生活を主眼に職員と一緒に生活を作っていくようにしております。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ゆり苑

作成日 平成23年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署の指導による夜間火災訓練を実施することができたが、全職員の3割程度しか参加ができなかった。多くの職員の参加が望まれる。	職員全員が当苑の防災に関してのすべての情報を共有し、災害時にはどの職員も協同、連携が取れる管理体制を構築する。	昨年度の取り組みと同様に定期的な防災訓練と防災に関する勉強会の実施を行っていく事とする。	平成23年4月から 平成24年3月 1年間
2	3	外部評価日の数日前に第1回の運営推進会議を開催することができた。入居者、家族がまったく参加できずの開催でした。出席者が偏っていたことが問題であり、これからの課題でもあった。	4月又は遅くとも5月中に第2回の運営推進会を開催する。	参加者の日程調整を進め、幅広く参加を求めて多くの意見等を集約できるような会議体としていく	平成23年4月から 平成23年5月 2ヶ月間
3	18	ボランティアさんを導入して外出支援を実施したが、外出支援に関して地域への説明が不足していたようで、地域から苦情が出てしまった。地域からの苦情がホームに直接届かないことが問題。（事業指導室から指摘を受けたこと）	地域との相互理解を進め、入居者の外出支援を円滑に進める。（行政を通さずに地域とホームが直接話し合える関係作りの構築）	運営推進会議、商店会会合、自治会会合等、いろいろな集まりの中へホーム（入居者、職員）が参加して、ホームの中身について語り、見ていただき、理解に努めていく。	平成23年4月から 平成24年3月 1年間
4					